

わがまち歴史探訪、足もとの文化遺産への誘い
ミュージアム都留からのお知らせ

収蔵資料展 開催中!!

会期 5月30日(日)まで

ミュージアム都留の収蔵品から、屏風絵などの大作を中心に日本画を展示します。

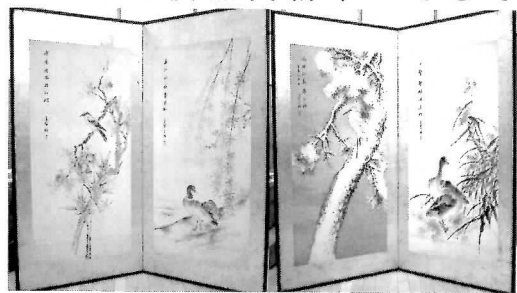
展示資料作家・作品紹介

○渡辺雪峰

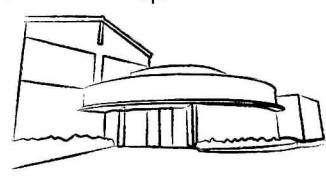
本名は渡辺精次。明治元年(1868)に出羽の庄内(現在の山形県)で生まれました。父は庄内藩儒で、明治6年(1873)廃藩置県により、故郷である下吉田に戻っています。

雪峰は天賦の画才があり、画家の渡辺小華、書家の長三洲など当時の一流に学びました。また、名所旧蹟を歴訪し、その眼で確かめるなど研鑽に励んでいます。

明治20年(1887)創立した日本美術協会に参加し、審査員及び幹事として活躍しました。明治35年(1902)ころ東京に居を移し、日本文人画協会



四季花鳥図屏風 渡辺雪峰 作



を主宰しました。また、南宗画会、文墨協会などで審査員を歴任しています。

昭和20年(1945)4月、戦火を避けて下吉田に疎開し、翌年同地の福源寺内に移り住みました。戦後の物資不足の中で、病魔に侵されながらも画業を続けましたが、昭和24年(1949)10月に死去しました。

※藩儒とは・・・藩主に使える儒学者のこと

○三枝茂雄

大正9年(1920)甲府市上一條町(現在の甲府市城東)に生まれました。東京美術学校(現在の東京芸術大学)日本画科を卒業後、教員として中国に赴任します。現地で兵役を務めたあと、昭和21年(1946)帰国して故郷の都留高、甲府一高に勤めました。

戦後まもなく日本画から油彩画へ転向し、昭和25年(1950)国画会の展覧会に出品して受賞します。昭和42年

(1967)には正式に会員となりますが、50歳を過ぎたころから再び日本画を描きはじめ、国画会にも水墨画を出品するようになりました。

その後、教員を退職して画業に専念し、個展を中心に活動、水墨画の本領を示す画家として高い評価を受けました。仏教因果や中国故事に題材を求めた作品は、画と書が渾然となった独自の画境を創っています。平成元年(1989)に死去しました。



高麗々蘭氷雪冷 三枝茂雄 作

※国画会とは・・・

日本画家の入江波光らが「西洋美術と東洋美術の融合と、新しい日本画の創造」を目指して、大正7年(1918)に創立した美術家団体のこと。

開館時間 午前9時～午後5時
観覧料 一般 300円(210円)
高・大学生 200円(140円)
小・中学生 100円(70円)
※()内は20名以上の団体料金です。
休館日 毎週月曜日、第3火曜日、祝日の翌日
問合せ ミュージアム都留 ☎(45)80008

勝山城の調査を終えて

昨年度、平成17年度から5年間実施してきた勝山城跡学術調査が終了しました。調査ではそれまで明らかでなかった石垣の存在や築城主として伝えられる浅野氏重以前の時代のもと考えられる堀も確認されました。新たな成果をあげることができ、従来の勝山城の歴史観を覆すような成果が出てきました。各分野の調査成果の詳細については、今後広報で紹介していきます。

なお、詳細な調査成果をまとめた『山梨県史跡 勝山城跡』を3月末に刊行しました。ミュージアム都留で1部2,400円で販売しています。また、同時に刊行した『山梨県都留市内遺跡発掘調査報告書』は1部3,500円で販売しています。
問合せ 学びのまちづくり課 文化振興担当

増田誠美術館企画展

『季節の情景―冬から初夏へ』

会期 6月13日(日)まで
会場 増田誠美術館(ふるさと会館2階)
開館時間 午前9時～午後4時30分
休館日 月曜日、第3火曜日、祝日の翌日

【作品介绍】

アミアン(フランス北部)近郊の小さな町のまだ春浅いころの町並みを描いた作品です。



「アミアン近郊の町」

問合せ ミュージアム都留 ☎(45)80008